

郷土研通信



ゴゼンタチバナ
アイヌ語名 レハムシ
（『阿寒・摩周の植物』細川音治著）

発行：てしかが郷土研究会 北海道川上郡弟子屈町中央3丁目2-10
発行者：松橋 秀和



九月例会

○近況報告

水越武氏写真作品の
移動完了

九月一日、斜里町の北のアルプ美術館に保管されていた同氏の写真作品を摩周観光文化センターに移動することが完了しました。

○情報提供

・永山在兼を顕彰した「永山峠」標柱の建立
九月二十七日に双岳台に建立式典が行われました。



・阿寒摩周国立公園 指定90周年式典

九月二十七日午後から摩周観光文化センターで開催されました。

・北海道東トレイル 開通式典・シンポジウム



釧路から知床まで約四一〇kmの「北海道東トレイル」開通式典と記念したシンポジウムが一〇月五日に摩周観光文化センターで開催されます。

・「シマエナガ」 切手シートが販売

美留和在住の自然写真家山本光一さんの作品です。



・郵便ポストのラッピング 国立公園指定90周年を記念して、てしかが出身の相撲錦絵画家木下大門さんの

デザインで弟子屈局前、川湯局前、カムイテラス、砂湯の郵便ポストがラッピングされます。

デザインで弟子屈局前、川湯局前、カムイテラス、砂湯の郵便ポストがラッピングされます。

・斎藤敬子さん述の「カムイピリマ（カムイのさきやき）」
てしかがトレイルクラブのホームページのウェブマガジンにアップされています。



・『東蝦夷物産志』を読む
一七九九（寛政一一）年に渋江長伯一行の蝦夷地探薬紀行を、釧路市内の研究者たちが解説したもので、三〇〇部限定で釧路市内の書店で販売されています。

勉強会

「郵便はかき」に見る

阿寒摩周の風景
講師 安藤 心 さん

国立公園に指定される前の弟子屈地域を絵はがきにした風景と同じような位置から現在の風景を写した写真を見比べ、何が変わらず、何が変化したのか確認しながら、会員は感想や知り得た情報が話されていました。
経済活動とそれに伴う自然の荒廃をどこで折り合いをつけるかが、悩ましい永遠の課題です。また、歴史資料、史料蒐集の大切さを改めて認識しました。

次回の例会

誠に申し訳ありませんが、都合により十月の例会日を一週ずらして
二〇二四年
一〇月三十日
一九：〇〇から
ふるさと歴史館
とさせていただきます。

勉強会

—— オールヒストリー
語り手 高田 中 氏
仮題

弟子屈あれやこれや
を予定しています。 第一話

むかしむか史写真館

No.346

まぼろしの 阿寒・屈斜路間道路

昭和三年二月九日付の「請願書」がある。表題は「阿寒湖ヨリ屈斜路湖間連絡道路開鑿二付請願」となっていて、差出人は屈斜路(村)部落民一同で請願先の記載がないことから、果たしてこの請願書が提出されたのかは定かでない。

の内容である。ルートは、その昔アイヌの人たちが往来していた道筋である。

日本に国立の自然公園を制定する動きは大正十年に全国十六カ所を候補地として選定されて、基礎調査が進められた。この候補地に阿寒湖周辺は含まれていたが、摩周湖、屈斜路湖は人知れずに含まれていなかった。

請願は、阿寒湖、屈斜路湖、摩周湖は近い将来国立公園に指定されるであろうから、屈斜路湖側と尾札部、パンケトーを経て阿寒湖側とを通じる自動車道路を造ってほしい、と

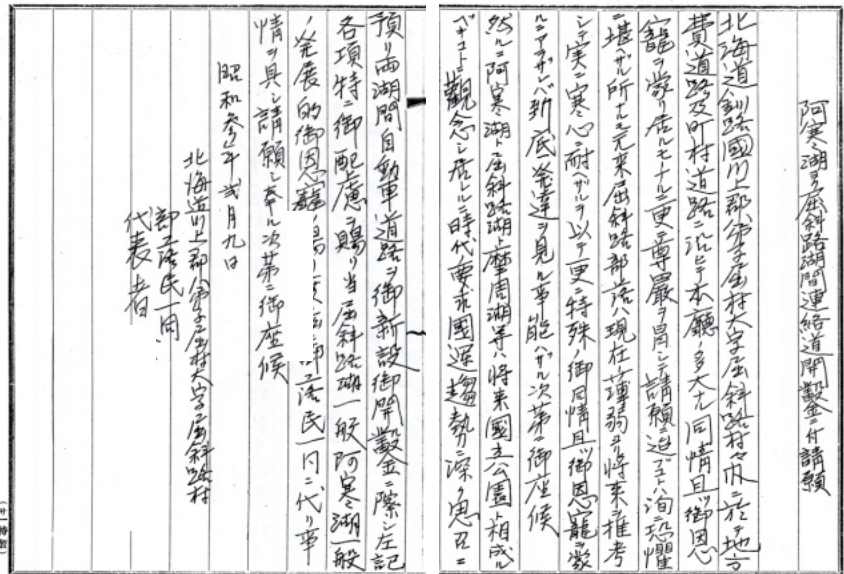
そのころの釧根地方の交通網は、鉄道の釧網線が大正十一年に釧路側と網走側から着工され、昭和二年に釧路から標茶まで開通し、昭和六年には全通した。自動車は大正十年代から昭和初期にかけて乗り合いバスを運行するなど普及し始めていた。これらの交通手段で川湯、屈斜路湖を訪れる人々も増えてはいたが、獣道しかない摩周湖はほぼ無名の存在であった。



請願のルート図(推定)

北海道庁高等官の土木技

阿寒湖ヨリ屈斜路湖間連絡道路開鑿二付請願



阿寒湖ヨリ屈斜路湖間連絡道路開鑿二付請願

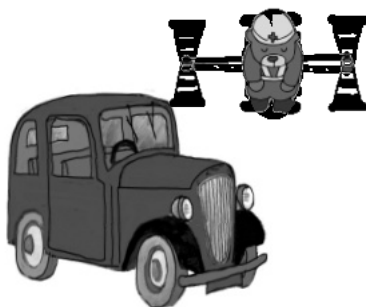
(代表者の氏名は筆者の判断で伏せた)

完成させ、屈斜路湖畔道路は大正十四年に開通させていた。残るは阿寒湖と摩周湖を結ぶ道路である。昭和四年に弟子屈から摩周湖(第一)展望台間に着手し同年開通させている。阿寒横断道路は昭和三年に測量に着手し、開通したのは昭和五年であった。

永山プランの道路網に沿って昭和六年、国立公園調査委員一行が阿寒から摩周湖・屈斜路湖一帯を来訪し、原生林の阿寒湖、神秘的な美しさで気品のある摩周湖、雄大な景観の屈斜路湖を含む一帯が国立公園に指定されたのは昭和九年十二月四日であった。

師永山在兼が釧路土木派出所長として赴任したのは大正七年で、昭和五年に釧路地方から転出するまでの九年間で、将来は自動車による地方交通の時代が来ることを見越した道路作りを行い、釧根地方の主要な道路建設にあたった。

指定されるよう運動が地元で始まり、同時期に永山は阿寒湖、摩周湖、屈斜路湖を結ぶ道路の「永山プラン」を発表した。それ以前に永山は、大正九年には屈斜路から美幌間の道路を開通させ、大正十二年には釧路から北見間に自動車の通行が可能な道路に改良を



(松橋 筆)